

庶民派「まじ太」(あくつ)を国会へ! 「超エリート」の「きざ夫」はもう沢山だ!

小泉氏への投票は安倍政権の延命だ

安倍は「2年のちの消費増税の増収を幼児教育無償化に転用することの理解」を求めて総選挙をすると、第一声で述べました。しかしそんなことなら、来年12月の任期切れの総選挙でも十分に間に合う話です。いま総選挙をすることは、それが安倍の政権延命の野望や利己からのみ出たものであることを教えています。究極の国家の私物化、政治の私物化です。

小泉氏は「悪いところ」に無関係だったのか

小泉氏は盛んに、「自分たち(安倍政権や自民党)にも悪いところがあった。反省している」などと語り、しかし口先だけの美辞麗句であって少しも心がこもっていません。

小泉氏は、安倍首相の森友学園、加計学園事件に代表される権力腐敗、政権の私物化という国家ぐるみの犯罪については、貝のように沈黙を守っています。

またアベノミクスも5年もの長い間、カネをまさに湯水のようにばらまいたり、財政膨張をはかっていたりしてデフレ脱却を言ってきました。

しかし、そんな政策は邪道の政策であって、「需要」を人為的に作り出したり、円安を演出して大企業の輸出を助けたりして、何か景気回復に役だったかに見えましたが、結局は一時的表面的なものであって、今ではデフレ脱却どころか、より深刻な、様々な矛盾や困難が吹き出しつつあります。

そしてそんな邪道の政策は、財政再建どころか財政危機をさらに深化し、国家の借金は今や1000兆円——国民1人当たり約1000万円——です。国民は巨額の税金を支払うか、戦後の時のような大インフレ(物価の急騰)で、近い将来、それを負担しなくてはならないのです。財政だけでなく、金利ゼロが続ぎ、金融の機能麻痺、崩壊も深化し、経済も寄生化して活気

を失い、動かなくなっています。

しかし小泉氏は、そんなアベノミクスに対して、一言たりとも批判はおろか、警告さえ発しません。

そればかりか、小泉氏は、安倍政権のもと、政権と自民党の要職に次々に抜擢(は)つてきざ夫、先頭に立って安倍政権のために、まるで安倍の茶坊主の役割を果たしているかに見えます。安倍政権のために、選挙と言えば、自分の選挙区などそっちのけで全国を走り回っています。

「自分たちにも悪いところがあった」どころか、先頭に立って「悪いところ」(安倍政権)を支持している、否、自分もまたそれに関与し、手を染めているとしか見えません。

小泉氏を国会に送れない

今回の総選挙は、安倍政権の信任を問う選挙だと言われています。

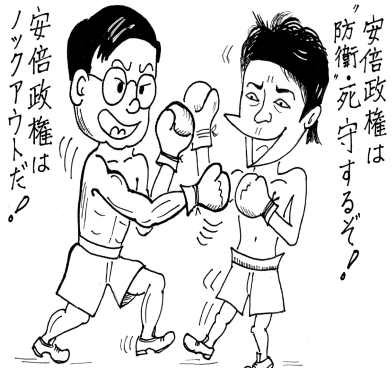
いま全国289の小選挙区で、安倍政権を交代させるのかどうかの激しい選挙戦が行われています。

一つ一つの選挙区の闘いが、したがってまた神奈川県11区の闘いもその一環であり、重要な意味を持っています。

11区でも自民党の候補を選ぶのか、他のより誠実で、信頼できる候補を選ぶのかということとは決定的な課題です。イケメンだとか、弁舌さわやかだといった問題ではありません。

小泉氏を国会に送ることは、安倍政権を擁護し、その延命に手を貸すことになります。もし安倍政権の交代を求めるなら、決して小泉氏に一票を投じることはできません。それは全国の安倍政権の退陣のために投票する人々を裏切ることにさえなり、11区の有権者として恥ずかしいことです。

今こそ、安倍政権の一扫のために、イケメンでなくても、本当の信頼できる、朴訥(はくたく)な労働者・働く者の代表を国会に送るべきときです。あくつ孝行をこそよろしくお願いします。



「庶民派」まじ太と「超エリート」きざ夫の「代理戦争」(11区)

小泉氏の「子ども保険」論を問う

「全世代型社会保障」はエリートの絵空ごと

「乳幼児教育」が総選挙の一つの争点、重要政策の一つとして争われています。小泉氏は、今や「子ども保険」制度の提唱者として、安倍政権のもとでもはやされ、安倍政権の最近の経済財政運営の指針、「骨太方針」の中にも、その構想は取り込まれています。

労働者の負担でバラまき政策

「子ども保険制度とは、簡単にいえば、労働者の厚生年金保険料を引き上げ、それを財源に幼児教育無償化を実現するということ」です。

彼は、「シルバー民主主義」つまり高齢者ばかりが優遇される現在の体制を変えて、高齢者にももっと負担してもらい、社会保障の恩恵を高齢者だけでなく、すべての世代にも行き渡るようにすることだともいいます。安倍の言うところの、高齢者だけではない、「全世代向け社会保障」という、おかしな考えですが、この点では、安倍も小泉氏も一緒です。

しかし財源問題一つとっても、彼らの論理はめっちゃくちゃです。全世代負担、あるいはむしろ今優遇されている高齢者にも負担してもらおうというのですが、子ども保険制度自体が、現役世代の労働者の保険料をかさ上げし(労使共同で)、それを原資にするというのですから、高齢者にも負担してもらおうということのつじつまが合いません。

小泉氏はまた、財源を消費増税に頼るのには反対だとも主張しています。つまり安倍政権の今の選挙公約とは反対です。そして子ども保険は、将来の世代に負担を先送りするのを止めることだとも説明するのですが、現役世代の労働者だけに負担せよなるは「子ども保険」のどこうか。

いいのか安倍政権の政策と全く別だが

さらに彼は、幼児教育の財源として国債(借金)に頼る安倍政権のやり方にも反対して、それは将来世代に負担を先送り

するからよくないといいますが、安倍政権の方は、消費増税を財源にするといながら、実際には借金返済分をそれに回すことになっています。

つまり安倍は2年のうちの2%消費増税分5兆円の中の、借金の返済に充てることになっている4兆円の一部(2兆円)を教育無償化に転用すると言っているのですから、これは借金によってやるということと同じです。

「子ども借金に頼らないでやる」という小泉氏の構想は、安倍政権の選挙公約と決定的に違っています。

また彼は、幼児教育無償化論は戸別給付だと言いますが、安倍は違っています。安倍は9月25日、「2020年度までに、保育園・幼稚園の費用を無償化する」と強調しました。安倍のこの考えを批判する余裕はありませんが、小泉氏の理屈とは別です。

また彼は、この問題は社会全体で子供を育てるという理念によるものでもあるとか、幼児教育の重要性を確認し、そのためのものであるとも強調しますが、労働者の保険料の引き上げは賃金労働者だけにしかかることであって、「社会全体」の負担ということとは違います。

要するに、多くのメリットがある、最善最高の政策であると言いはやされるのですが、小泉氏の自画自賛にもかかわらず、子ども保険の思いつきは、矛盾と無原則の空論でしかありません。

彼の構想で残ることは、子ども保険という名の、労働者の負担によって、幼児のいる家庭にバラまくということだけです。

高齢者に「失礼で」、ばかげている

私は、全世帯に配布される選挙公報でも、「全世代型社会保障」という考えは、「品が無く、高齢者に失礼だし、現役世代にとっても不愉快」と書きましたが、余りにも粗野で、不真面目です。

小泉氏の子ども保険構想やその考え方も内容も、現在安倍政権が総選挙で中心政策の一つとして持ち出している乳幼児教育無償化政策とはこんなにも違い、対立しているのですから、容易に賛成できるはずもないのに、森友学園、加計学園の場合と同じく小泉氏は、それを無批判的に支持し、正当化しています。彼の誠実さと人間性を疑わざるを得ません。

女性差別して社会保障云々は侮辱

小泉氏は現役世代に社会保障だといいます。しかし現役世代は、本来は自ら働いて生活し、社会保障を担う人々です。彼らが社会保障を必要とするなら、資本の社会が働く現役世代を痛めつけ、ひどく搾取するからです。社会保障ではなく、賃金引き上げや差別の一扫が必要なのです。女性労働者への差別は深刻ですが、それはとりわけ母子家庭に明らかです。年に百万や百五十万で母子は生きていくことができず、社会保障ということになりませんが、女性差別を一扫し、男女平等の賃金にすれば、待遇も平等にすれば、貧しい家庭も救われます。

安倍や小泉氏の「全世代型社会保障論」は、労働者も女性も高齢者も侮辱する、エリートたちの「上から目線の」卑しい観念でしかありません。

労働の解放をめざす労働者党

あくつ孝行

選挙事務所

〒238-0052 横須賀市佐野町5丁目30番地
電話 046-895-0732